

地域が一丸となり、災害に備え、助け合う

自主防災組織



— 阪神淡路大震災、東日本大震災 —

この大震災では多くの自主防災組織が、避難誘導や安否確認、避難所運営などさまざまな活動を行い、大きな役割を果たしました。

いつ発生してもおかしくないと言われる南海トラフ巨大地震。この地域においても災害の発生が懸念されるため、地域の防災力を高めることは重要です。

地域が一丸となって災害に備え、助け合う「自主防災組織」の活動をあらためて考えてみませんか。

自主防災組織の 訓練について

地域のことを熟知している組織だからこそ取り組むことができる活動があり、その役割には大きな期待が寄せられています。

市民の皆様の防災意識の向上や地域の防災力強化を図るため、災害時に「自分たちでできること」を認識し、実際に行動するための訓練内容を紹介します。

主な訓練の内容

● 初期消火訓練

消火栓や可搬ポンプを使った

消火訓練

● 倒壊家屋からの 救出救助訓練



ジャッキやスコップなど身の回りにある器材を使った救出訓練

● 避難訓練

発災時を想定して、実際に地域の避難場所までの避難ルートを確認する訓練

● 要援護者の 避難・介助・搬送訓練

地域内に居住している高齢者や障がい者の避難、身近な物を利用して簡易担架を作り負傷者を避難する訓練

● 災害図上訓練

各地域の地図を用いて危険箇所や避難経路を確認する訓練

● 救命講習

心肺蘇生法や怪我・病気の際に役立つ応急手当の方法、AEDの取り扱い訓練

その他、防災ビデオの視聴や炊き出し訓練などがあります。

自主防災組織隊長や リーダーの固定化が有効

自主防災組織の活性化を図り、積極的な活動を行うためには、防災に関する知識や経験の豊富な方々が地域の皆様の先頭に立ち、組織の隊長やリーダーとして、リーダーシップを発揮し、指導や活動が行



われることが非常に重要で効果的であるといえます。

そのため、自主防災組織の隊長またはリーダーには、複数年固定してご活躍いただける方を選出されることを勧めています。

万が一被災した場合に、地域住民の命や財産を守るため、地域に住む人たちは、大きな力になります。日頃から、自主防災組織の組織力強化を図り、「いざい」という時のために備えておきましょう。

問合せ先 防災課
☎32-00119
広報ID 10000279